

アメリカの病院と医学教育について

松島 優花(高校2年)

私は将来、医療従事者になりたいと思っており、このプログラムを将来につなげるべく、フリーデイトーランスにある病院を見学させていただき、また心臓専門医である Howard Baik さんにアメリカの医療事情についてお話を伺いました。

トーランスには大きな病院が2つあり、私が行った Kaiser Permanente South Bay Medical Center in Harbor City はそのうちの一つです。病棟や病室の構造、待合室の様子は日本とあまり変わりませんでした。医師一人一人がある程度の広さのある個室を持っていることに私は驚きました。もちろん何人かで集まることのできる部屋もあり、医師たちが集まって画像やデータ等を見ながら治療法について話し合っていました。それ以外にも ICU に行かせていただき、どのような患者さんがいるのかも聞かせていただきました。その後専用服を着て、手術を見せていただきました。もちろん手術室に入ることはできませんでしたが、窓の外から手術の様子を見たり、モニターで内視鏡の先端のカメラの映像を見たりしました。

案内して下さった Baik さんには特に、アメリカの医学教育について伺いました。アメリカで将来医師になりたい学生はまず、一般の4年制大学に進学する必要があり、その後4年制の専門職大学院であるメディカルスクールに通います。つまり修了者は、大学と大学院合わせて8年修業することになります。またメディカルスクールの学生もしくは卒業生は、日本でいう医師国家試験である、USMLE(United States Medical Licensing Examination)を段階的に合格する必要があるそうです。それは



なんと3段階あり、それらに合格し州に申請して、州から医師の免許を交付されると、医師として医療行為ができるようになります。しかしここで驚きなのが、step2まで合格すれば勤務医として働くことができるという事です。ただし、開業医として働くにはstep3まで合格する必要があるそうです。アメリカで医師となるにはUSMLEに合格して終わりではなく、研修病院で臨床研修、いわゆるインターンシップを1年間行い、その後レジデンシーと呼ばれる研修を数年間行った後、最後に専門医研修であるフェローシップを修業し、晴れて一人前の医師になることができるそうです。つまり、アメリカで医師になるのは30歳前半から半ばなのだと Baik さんはおっしゃっていました。

私は今回、アメリカの現役の医師である Baik さんにお話を伺い、アメリカで医師になるには日本以上に長い道のりが必要なのだとわかりました。また、医師となるための過程も日本とは大きく異なり、どちらがいいなど一概には言えないものの、どちらにもそれぞれの良さがあると気づくことができました。

今回の派遣は、私にとってかけがえのない経験となりました。KIRA、TSCA、支えてくださったすべての皆様、本当にありがとうございました。今回の派遣で得た人とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思えます。